

9章 副詞・副詞句・副詞節

問題

【1】

ポイント

副詞句と形容詞句との違いや注意すべき副詞など、さまざまな基本的論点を確認する。

解答・解説

- (1) (a) (i) 「父から手紙を受け取った。」
○ from my father は副詞句で got という動詞を修飾する。
(ii) 「父からの手紙を読んだ。」
○ from my father は形容詞句で letter という名詞を修飾する。
- (b) (i) 「このコーヒーはかなり熱い（熱くて良い）。」
○ fairly 「かなり（望ましい意味）」
(ii) 「このコーヒーはかなり熱い（熱すぎる）。」
○ rather 「かなり（望ましくない意味）」
- (2) (a) before 「昨年、彼は3年間働いていた会社を辞めた。」
○ ago は「今から～前」であるのに対して、before は「（過去の）ある時点より～前」を表す。本問では「昨年より3年前」である。
- (b) yet 「その話はまだ聞いていません。初耳です。」
○ have yet to do 「まだ…していない」。have still to do という言い方もあるが、still は実現しそうな意味を含むとも言われる。
- (c) still 「まだその話は聞いていません。初耳です。」
○ 「いまだ～ない」の意味は not ~ yet とするか、もしくは still ~ not とする (= I haven't heard the story yet.)。
- (d) ever 「これはこれまで見た中で最も美しい風景です。」
○ ever 「これまで；ずっと」
- (e) hardly 「コンテストまでほとんど時間が残っていない。」
○ hardly [scarcely] any ~ = almost no ~
cf. hardly [scarcely] ever ~ = almost never
- (f) not 「わかりますか。」「いいえ、残念ながらわかりません。」
○ I think so. や I hope not. などのように、目的語である肯定の that 節の代わりに so. 否定の that 節の代わりに not を用いる用法がある。
Ex. “Is he coming?” “I think so. (= I think that he is coming.)”
○ 本問の I'm afraid not. は I'm afraid that I don't follow you. の意味になる。
- (g) Here 「少ないがこれをあげます。」
○ Here is S. で「ここにSがあります。」となる。直訳は「あなたのための何かがここにあります。」である。

- (h) either 「彼らは最善を尽くさなかつたし、先生もまた尽くさなかつた。」
- 「～もそうです」と肯定の場合は、*too* を用いるが、「～もそうではない」と否定の場合には、*either* を使う。
- (i) that 「よく聞いてください。そんなに簡単ではありませんよ。」
- *this* や *that* には副詞として「こんなに」、「そんなに」とする使い方がある（指示副詞の *this*, *that*）。
- Ex.* I cannot eat this much. (こんなにたくさん食べられません。)

【2】

ポイント

very も *much* も強意の副詞として用いるが、その使い方は異なる。ここでその相違をしっかりと学習しておくこと。

解答・解説

- (1) *very* 「この絵はとても美しい。」
- 形容詞・副詞を強調するには *very* を用いて修飾する。
- (2) *much* 「あなたの親切を大変感謝しています。」
- 動詞を強調するには *much* を用いる。ただし、*very*, *so*, *too* などを伴わずに *much* が単独で置かれるのは疑問文と否定文の場合が普通。また *much* を単独で前に置くことのできる動詞は、強い感情を表す動詞 (*e.g. admire, appreciate, regret*) や比較の意を含む動詞 (*e.g. exceed, increase, improve*) などに限られる。
- (3) *much* 「その教授の態度は大変尊敬されている。」
- 過去分詞を強調するには *much* を用いるのが普通。
- (4) *very* 「昨晚の野球の試合は大変興奮せるものだった。」
- 現在分詞を強調するには *very* を用いる。
- (5) *very* 「私たちはあなたが参加してくれたことを喜んでいます。」
- 日常的に用いられて形容詞化したと言える過去分詞は *very* で強調できる。
- (6) *very* 「これは私がこれまで読んだ中でもずば抜けてよい本です。」
- 最上級は *very* でも強調できる (= *much [by far] the best*)。
- (7) *much* 「彼は私よりはるかに速く走れる。」
- 比較級は *much* で強調する。
- cf.* *much better* = *far, still, even, yet better*
- (8) *Much* 「私が大変驚いたことには、彼女が人気テレビ番組に出演していた。」
- *to one's + 感情名詞* (～なことには) を強調するためには *much* を用いるが、その位置には注意 (= *To my great surprise, ~*)。
- (9) *much* 「この点について、その理論は両方ともだいたい似通って見える。」
- 「同じ」という意味の形容詞を *much* で修飾すると「だいたい同じ」という意味になる。
- (10) *much* 「私は自分にはあまりに時期尚早だと分かった。」
- *too* を強調するには、*much, all, far, way* などを用いる。
- Ex.* This is way too good!

【3】

A.

ポイント

副詞の中のいくつかは他の品詞としても用いられる。ここではその中でも代表的なものを扱う。

解答・解説

(1) ever

時の副詞で「これまで；ずっと；いつか」という意味を表す。

(a) 「この映画は史上最高傑作の1つです。」

○ ‘最上級 + ever’ で、「これまでの中でも」と最上級を強調する。

(b) 「ウイリアムは古今類を見ない偉大な芸術家です。」

○ as ~ as ever lived は「これまで生きてきた誰にも負けないほど～だ」が直訳。

(c) 「いつか東京に来ることがあれば私どもに是非立ち寄ってください。」

(d) 「彼の猫は相変わらずかわいい。」

○ as ~ as ever は「これまでと変わらず～」が直訳。

(2) once

(a) 「ダニエルは1月に1回ロンドンに出張に出かける。」

○ once 「1回」

(b) 「いったん卵子が受精したら、受精卵が成長し始めます。」

○ once は接続詞。

○ Once S V, ~ 「いったん S が V すれば～」

○ fertilize 「～を受精させる〔肥沃にする〕」

○ embryo 「受精卵；胎芽」

(c) 「私は一度〔かつて〕髪を金色に染めたことがある。」

○ once 「かつて；一度」

(d) 「今度ばかりは誰かに手伝わせればいいじゃない。」

○ for once 「今度だけは」。for は‘交換’を表し「この一回と引き換えに」が直訳。

(3) far

(a) 「博物館まで歩いていこう。」

○ ‘as far as + 場所’ で前置詞的に扱われ、「～まで」という意味になる。

(b) 「私に関する限りでは、この本は生徒によくない（と思います）。」

○ as [so] far as S is concerned 「S に関する限り」

(c) 「ここから駅まではどのくらい遠いですか。」

○ far は形容詞で「遠い」。

(d) 「今までのところ、新しい仕事に満足しています。」

○ so far 「今までのところ」

B.

ポイント

only は置かれる場所によって意味が変わる代表的な副詞である。置かれる場所によって

どのようにニュアンスが変わらるのかを確認しておくこと。

解答・解説

- (1) c 「その新しいマニュアルだけが事務員を困らせた。」
○ Only the new manual は「その新しいマニュアルだけが」となる。つまり古いマニュアルは困らせなかつたのだろう、と推測する。
- (2) d 「その新しいマニュアルは事務員を混乱させたに過ぎなかつた（が、まる一日を台なしにしたわけではなかつた）。」
○ only confused は「混乱させたに過ぎなかつた」となる。
- (3) b 「その新しいマニュアルはその事務員だけを混乱させた。」
○ only the clerk で「その事務員だけを」となる。
- (4) a 「その新しいマニュアルは唯一の事務員を混乱させた。」
○ the only ～は「唯一の～」となる。この only は形容詞。

[4]

A.

解答

a

全訳

最近までアメリカ合衆国の女性は、テーブルを選んだり券を手渡したりプログラムを買ったりという、済ませなければならない用事がある時以外は、たいてい男性に先立って部屋や映画館、レストランに入って行った。そのような用事がある際には男性が先行して細かい用を足した。

B.

全訳

口頭伝達に関する限りでは、英語圏は完全に異なった伝統を持っている。これは古代ギリシアに始まり今日まで続いているヨーロッパの伝統に負うところが多い。ギリシア人は言語と伝達に最初から高い価値を置いていた。

C.

全訳

宇宙飛行士は、自分のロケットが燃えさかる太陽の中、あるいは最寄りの惑星に落ちてしまうといけないので、自分がその間を飛行している天体の引力をいかなる瞬間も知り、ロケットの推力を使わなければならない。

D.

全訳

漫画家は、読者は一般的に集中力を發揮したがらないものだという正しい推定の上にたって仕事をするので、漫画の着想は強烈に明確に表現されていてちらっと見るだけで着想をつかみとれることが多い。

【5】

解答

- (1) I said to the young people in charge, "Do many children get hurt here?"
- (2) 「全訳」の下線部②, ③参照。
- (3) No matter
- (4) d

解説

(1) 一般疑問文の転換。got は時制の一一致による過去形なので、直接話法では現在形の疑問文にする。また文脈から作者の発言はその広場でされたことがわかるので there → here とする。

(2)

- ② ◇ Left alone : 分詞構文 = When children were left alone, ...
cf. leave O alone 「Oに干渉しない〔そのままにしておく〕」
- ◇ what kind of risks they would run 「どんな種類の危険を冒すか」
- about の目的語になる名詞節。would は時制の一一致により過去形になっている。
- ◇ for being adventurous 「冒險好きのために」《理由》
- ③ ◇ The deep lack of trust in children, <挿入>, has ... poisoned
S V
と主語と述語の間に長い挿入が入っていることに注意。

◇ The deep lack of trust in children (子供に対する信頼のひどい欠如) は続く this feeling that … (…という感情) によって言い換えられている。that … は this feeling の同格節。

- ◇ at any second 「いかなる瞬間においても→いつ何時」
- ◇ has to some extent poisoned ~ 「～をある程度毒してきた」
- 現在完了形 has poisoned に to some extent 「ある程度」が挿入された形。
- ◇ air : ここでは「雰囲気」
- ◇ … or day care center (that) I have seen と関係代名詞を補って考える。
- that は almost every kindergarten ~ day care center を先行詞とする。

(3)

- however … = no matter how … 「いかに…であっても」《讓歩表現》
- might : may よりも婉曲な表現。
- like to (settle down to a relaxed, calm, quiet conversation or game or project with one or two children) 《反復を避けるための代不定詞の用法》

(4)

- a 幼稚園の先生は、常に預かっている子供達全てに等しく注意していかなければならない。こうすることで、全ての子供が安心感を抱くだろう。
- 本文第2段落の内容に反する
- b どう振る舞えばよいか分かる大人になるように、子供は好きなようにさせておくべきである。

○本文に記述なし

- c 現代の幼稚園の教育にかかる人達は、子供を常時管理しておくことはよい考えだと主張している。

○本文に記述なし

- d 広場でのけがの数が減少したのは、母親達が子供から隔てられ、子供が遊んでいるのを見ることができなくなったためである。

○本文ℓ. 3 They said, "No, not since we told the adults that they couldn't come in."(彼らは「大人に入場してはいけないと言って以来、多くの子供がけがをすることはなくなった」と言った)に合致。

全訳

何年も前のことだが、私はロンドンのホーランドパークにある冒険広場を訪れた。その広場には木登り用の木とか、ぶら下がる綱とか、その他の「危険な」ものがいっぱいあった。私はそこの監督をしている若者達に、そこではけがをする子供が多くいるかどうか尋ねた。彼らは「いいえ、多くはいません。大人にここに入らないように言ってからは。」と言った。母親が入ってくることができた時には、彼女たちは常に「これをしちゃだめ、あれをしちゃだめ、それは危なすぎる。」とばかり言っていた。子供達はこうした口調に非常に腹を立てたり屈辱感を覚えたりして、「見せてやる」という気持ちで高すぎる木にいきなり登ったり、難しすぎる道具を使ったりしたものだった。ひとたび危険に陥るや子供達は「落ちるわよ、落ちるわよ。」という母親の声を耳にして、すぐに混乱してすさまじい音をたてて落ちたものだった。そういうわけで広場管理者らは、子供達が広場で遊んでいる間、母親達が座って話をすることはできるが、子供の姿を見ることはできない、ちょっとした待合場を設けた。それ以来、最もひどいのがと言えば軽い足首の捻挫だったと彼らは私に話してくれた。②干渉されないでいたら、子供達はどんな危険を冒すかについて非常に用心深い選択をした——もちろん、子供は冒険好きなので、当然いくらかの危険は冒してみたいと思ったのである。それと同時に、彼らは危険な状況の中でいかに冷静かつ沈着になるかということも習得した。

③子供に対する信用のひどい欠如、つまり、子供はおそらくばかなことや乱暴なことをいつ何時でもやりかねないといった気持ちによって、今まで私が見たことのあるほとんどの幼稚園や保育所や託児所の雰囲気はある程度毒されていた。そして、こういった所で私を案内してくれた人々は、最良のものを私に見せているのだという思いをいつも持っていた。その担当者は、たいてい大変感じのよい、優しい、知的な若い女性達なのだが、こういった心配ばかりしている。たとえどんなにそうしたいと思っても、彼女たちは1人あるいは2人の子供との寛いだ穏やかで静かな会話やゲームや学習課題に落ち着いて身を入れることは決してできずに、子供達が皆何かをしているか、悪いことをしている子は誰もいないかということを確かめるために、常に部屋中をちらちら神経質に見回していなければならない。結局子供は大人から十分気を配ってもらうことがほとんどないということになる。というのは、大人達は目の端で常に別の子供を見ているからである。子供達が概して楽しいことをしている時でさえ、このような大人側の不安が子供達全員を不安にさせがちなのである。

注.....

- ℓ. 2 ◇ trees to climb 「木登りするための木」
○ to climb は trees を修飾する形容詞用法の不定詞。trees を意味上の目的語としている。後の ropes to swing on も同様の用法。
◇ stuff 「(漠然と) もの」
- ℓ. 3 ◇ the young people in charge = the young people (who were) in charge
○ in charge 「責任があつて; 世話・管理をして」
◇ whether … 「…かどうか」 (asked の直接目的語)
- ℓ. 5 ◇ they were constantly saying … 「彼らはいつも…ばかり言っていた」
○ 進行形が always, constantly などの副詞を伴つて「…ばかりしている」等の批判を表す用法。
- ℓ. 6 ◇ 過去の習慣を表す would 「…したものだった」
◇ so ~ that … 「非常に~なので…」
◇ this kind of talk : 前文の母親達の “Don't do this, … too dangerous.” を指す。
○ talk 「話し方; 口調」
◇ in a spirit of “I'll show you” 「『見せてやる』という気持ちで」
- ℓ. 7 ◇ rush to do 「急いで…する」 (climb ~ と use ~ の両方にかかる)
◇ a too tall tree / a too difficult piece of apparatus : too tall a tree / too difficult a piece of apparatus の語順も可。
◇ Once in danger = Once they were in danger 「いったん危険に陥ると」
- ℓ. 8 ◇ with their mothers' “You'll fall, you'll fall,” in their ears 「母親達の『落ちるわよ, 落ちるわよ』という声を耳にして」
○ 付帯状況を表す用法。
○ mothers' : -s で終わる複数形の名詞の所有格は 'だけをつける。
◇ would : 過去の習慣を表す。「…したものだった」
- ℓ. 9 ◇ crash 「①すさまじい音 ②墜落」
- ℓ. 12 ◇ sprain 「～を捻挫する」
- ℓ. 14 ◇ how to do 「…のしかた」
- ℓ. 21 ◇ this kind of anxiety (この種の心配) は前文の at any second … or destructive (子供はいつ何時ひどく愚かなことや破壊的なことをするかもしれない) を指す。
- ℓ. 23 ◇ to be sure that everyone is doing something and that no one is doing something bad 「皆が何かをやっているか, そして誰も何か悪いことをしていないかを確かめるために」《目的を表す副詞用法の不定詞》
- ℓ. 24 ◇ The result is that a child rarely ever gains the full attention of the adults 「その結果子供は大人から十分気を配つてもらうことがほとんどないということになる」
○ that … は主格補語になる名詞節。
○ ever : rarely をさらに強めている。「ほとんど…ない」
○ full 「完全な; 十分な」
○ この文は直後の文でさらにその内容を説明されている。

- ℓ. 25 ◇ they are always looking out of the corner of their eye at someone else 「彼ら (= the adults) は常に目の端から他の誰かを見ている」
- look out of ~ 「～から外を見る」
- ℓ. 26 ◇ Their unease tends to make all the children uneasy 「彼ら (= the adults) の不安が全ての子供達を不安にさせる傾向がある《直訳》 → 彼らの不安によって全ての子供達が不安になる傾向がある」
- unease 「不安」
 - tend to do 「…する傾向がある」
 - make O C 「OをCにする」 O = all the children, C = uneasy
- ℓ. 27 ◇ on the whole 「概して」
- things (that) they enjoy と関係代名詞を補って考える。

【6】

ポイント

副詞句と副詞節の書き換え問題も入試においては頻出である。ここでは代表的なものを学習する。

解答・解説

(1) Although [Though], is poor

「彼は貧乏にもかかわらず、毎日幸せを感じている。」

- in spite of ~ = though S V ~

(2) While I

「ロンドンに滞在中、大英博物館を訪れた。」

- during ~ = while S V ~

(3) As time

「時が経つにつれて、彼女への怒りが大きくなかった。」

- passage 「(時の) 経過」 < pass

(4) I heard the news

「その知らせを聞いた時、驚いた。」

- be surprised at ~ の at は「～を聞いて〔見て〕」の意味を含むと言われる。

(5) unless, study hard

「一生懸命勉強しない限り、成功できないよ。」

- make it 「うまくいく」

- unless S V 「SがVしない限り」

【7】

ポイント

整序英作文を演習しながら、さらに、重要な副詞の使い方を覚えていく。

解答・解説

(1) These toys in this shop are made in Japan unless otherwise stated.

「特に明記されていない限り、この店のおもちゃは日本製です。」

○ unless (they are) otherwise stated と補って考え、意味は「違ったふうに述べられていない限り」となる。副詞 otherwise には、「①さもなくば ②違ったふうに ③他の点では」の意味があることに注意。

(2) There used to be a small hut here. [Here there used to be a small hut.]

「かつてここには小さな家があった。」

○ There is 構文にすればよい。この there は「そこに」という意味はない。

(3) I sometimes look at the other students my age and wonder why they always make a bother about any sort of examination.

「時に同じ年の学生を見て、彼らはなんで試験というものになるといつも大騒ぎするのだろうと不思議に思う。」

○ sometimes は一般動詞の前に来る（頻度の副詞は頻度順に always, usually, frequently, often, sometimes, occasionally, rarely, hardly ever, never などがある）。

○ students of my age の of が省略された形。

cf. Look at the ball the size of an apple. (あのリンゴ大のボールを見てください。)

(4) The explosion did not a little damage to the neighboring area.

「その爆発は周辺地域に少なからぬ損害を与えた。」

○ do damage to ~ (～に損害を与える) を not a little (少なからぬ) で修飾したもの。 didn't という否定を表す助動詞ではないことに注意。

(5) For animal and man alike [For man and animal alike], defense is a specialized activity of tremendous importance.

「人間も動物も同様に、防御とは非常に重要な活動である。」

○ A and B alike 「A も B も同様に」

【8】

解答

- (1) Just try on this hat.
- (2) I was so tired that I went to bed in my clothes.
- (3) I'm on your side.
- (4) I'm in full support of your opinion.
- (5) It's a piece of cake.
- (6) So everybody's happy.

解説

- (1)

「～を身につけてみる」は、try on ~ で表す。

「ちょっと…してごらんなさい」は'Just + 命令文'で表す。

「～（衣類や装身具など）を身につける」という動作は通常 put on ~ で表すことができる。

put on {
 a coat (上着を着る)
 a hat (帽子をかぶる)
 shoes (靴をはく)
 a ring (指輪をはめる)

本問の try on は、この put のところに「…してみる」の意の try を組み込ませた変形と考えることができる。例えば「急いで雑に身につける」という内容を表現したければ、put on ~ の put のところに fling を入れて fling on ~ とすればよい。

cf. fling one's coat on [fling on one's coat]

(2)

「着のみ着のままで」「衣類を替えないで」は

{ with nothing but one's clothes
 with one's clothes on
 in one's clothes
 without changing one's clothes

で表す。

ついでに「靴を脱がないで」も同様に with one's shoes on ; without taking off one's shoes ; in one's shoes で表せることも覚えておこう。

(3)

「君を支持する」という内容を on を使って表現すれば I'm on your side. となる。

be on one's side で「～の側についている」という意味となることを知っていないと本問の解答は無理である。

この side は、either of two or more people or groups who are fighting, playing, arguing, etc. against each other の意味で用いられている。この on は「接触」から「所属」を表している。例文を挙げておこう。すべて入試に頻出するものばかりである。

Ex. He is on the team. (彼はチームの一員だ。)

She is on the teaching staff. (彼女は教授陣の一員だ。)

Are you on my side or his? (君は僕の味方なのか、それとも彼の味方なのか。)

Whose side | are you on? (君はどちらの味方ですか。)
Which

the | dove | side (ハト派)
 hawk | side (タカ派)

The lawyer is always on the side of the poor.

(その弁護士はいつも貧民の味方である。)

(4)

in を用いて「～を支持する」という内容を表すには be in support of ~ というコロケーションを用いる。(support が無冠詞である点に注意!) 「全面的に」は full という形容詞を support の前に置いて表現するのが慣用。

以上より「～を全面的に支持する」は be in full support of ~ となる。したがって本問の正解は I'm in full support of your opinion. となる。なお、この in は「活動・従事・所属を

示す用法」に分類される。

e.g. <u>in</u>	school (在学中で)
	class (授業中で)
	hospital (入院中で)

Ex. There is a lack of evidence in support of his charge.

(彼の抗議には証拠の裏付けが足りないところがある。)

(5)

本問は cake を用いた慣用表現を聞いている問題であると察しがつくはず。

結論を先に言えば、「そんなことは簡単だよ。」を cake を用いて書けば It is a piece of cake. となるが、5語でという条件があるので、縮約形を用いて It's a piece of cake. となる。この表現についてはある辞書に以下のような説明がある。

If you think something is very easy to do, you can say it is *a piece of cake*. People often say this to stop someone feeling worried about doing something they have to do; an informal expression.

(6)

口語表現では「それ故」の意味の「それで」は so である。Therefore ; As a result とすると文語調になり、本問の内容とはずれる。

ここでの「四方八方」は文字通りの「あらゆる方角；方面」という意味でとるよりは、内容をとって「すべての人」と解釈し、everybody と考えるとよい。

「丸く収まった」は一見難しいように思うが、happy のシンボルが「満足している状態」を表すことを知っていれば、be happy と処理することは容易。

以上より、本問は

So everybody	is	happy.
	was	

現在 happy であるなら is、過去においてそうであるなら was を用いる。口語表現では、So everybody's happy. が定形として用いられているというのが、テキサス州出身のインフォーマントのコメントであるので、模範解答には、So everybody's happy. をあげておいた。happy = 「幸せな」と思い込んでいる生徒が多く、これでは応用がきかない。下の例を覚えこんで欲しい。

Ex. I'm not happy with his way of doing the job.

(私はあいつの仕事のやり方が気に入らない。)

If you're not happy with the service, you don't have to leave a tip.

(サービスに不満な場合には、チップを置いていく必要はない。)

The pay raise our brother got made him happy.

(我々の兄は昇給に満足だった。)

今日の一言

The boughs that bear most hang lowest. 「実るほど頭が下がる稲穂かな。」

that は関係代名詞 which の意味で、that bear most が先行詞 boughs を修飾しています。このように名詞を修飾する従属節を形容詞節と呼びます。直訳は「最も多くの実をつける枝が最も低く垂れる。」という意味で、人間的に優れた人ほど謙虚に振る舞うものだということを表します。この授業を受講して英語は出来るようになってきていますか。出来るようになっても奢らず高ぶらず、謙虚な姿勢で臨みましょう。